



2018年3月期 第2四半期 決算説明

TDCソフト株式会社

本日のポイント

第2四半期の実績

- ・売上については各事業分野の成長戦略が堅調に推移し、増収。
- ・期初に計画したとおりに、次世代型 S I 事業等に向けた投資を積極的に推進

2017年度のトピックス

- ・近畿大学と人工知能を用いた学生評価支援の研究を開始
- ・産業技術大学院大学とエンタープライズアジャイル分野に関する共同研究を開始
- ・クラウド型ワークフローシステム「Styleflow」を販売開始
- ・IT企業向けアプリマーケット「Meeepa」をリリース開始
- ・商号をTDCソフト株式会社へ変更

目次

- 第2四半期の決算概況
- 2017年度経営計画
- 重点施策の取り組み状況
- 業績見通し

決算概況(連結)

(単位：百万円)	2018年3月期 第2四半期	利益率	増減率	2017年3月期 第2四半期
売上高	11,334	-	+1.8%	11,138
売上総利益	2,390	21.1%	+2.1%	2,341
営業利益	889	7.8%	△9.6%	983
経常利益	917	8.1%	△8.2%	999
当期純利益	570	5.0%	△8.7%	624

【売上高】

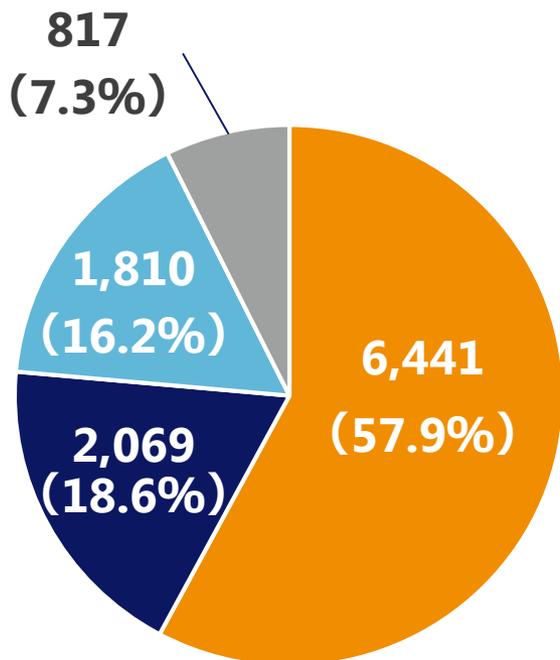
- 各事業分野の成長戦略が堅調に推移

【利益】

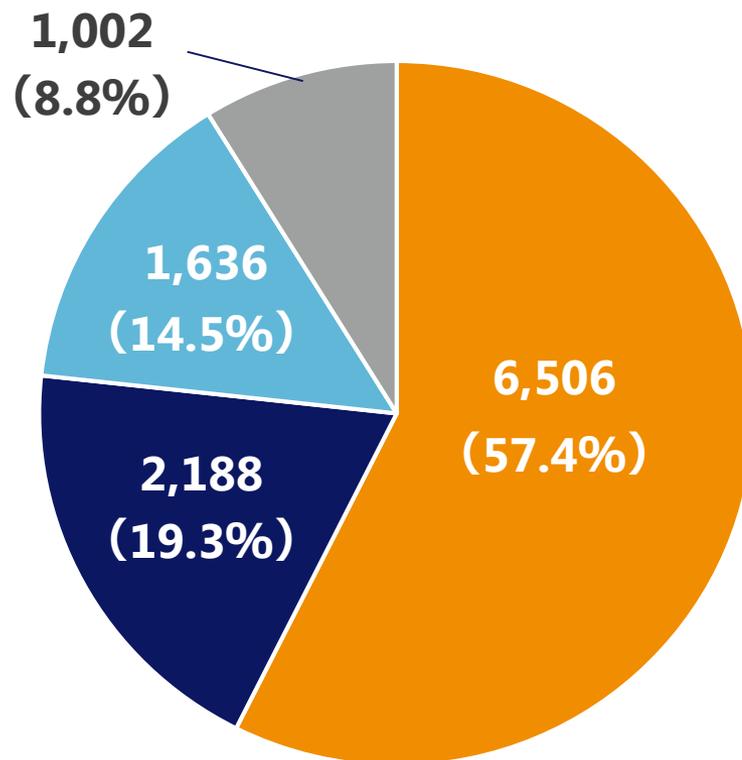
- 堅調に事業環境が推移する中、期初に計画したとおりに次世代型 S I 事業等に向けた投資を積極的に推進

分野別売上高概況

2017年3月期第2四半期
11,138百万円



2018年3月期第2四半期
11,334百万円



アプリケーション開発分野 (金融)

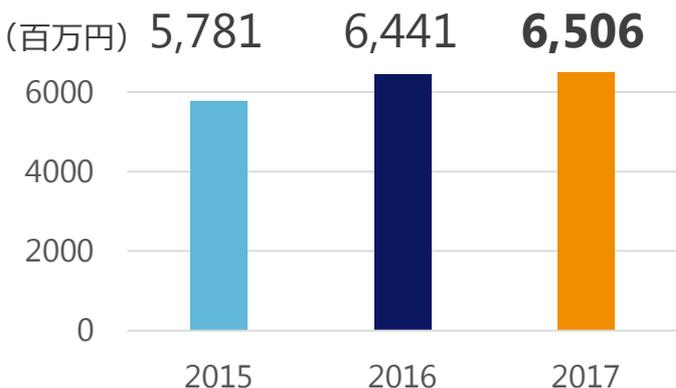
ソリューション分野 (インフラ・ネットワーク)

アプリケーション開発分野 (法人)

ソリューション分野 (パッケージ等)

分野別ハイライト

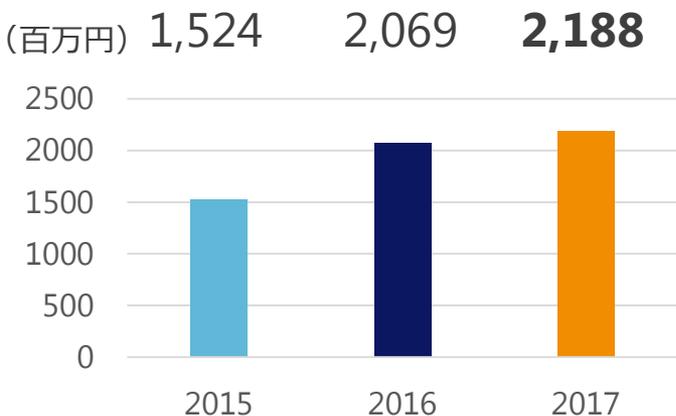
金融アプリケーション開発分野



銀行、保険業向けシステム開発案件において一部の大型案件がピークアウトした影響が出る中、クレジット業向けシステム開発案件が堅調に推移

前年同期比1.0%増収

法人アプリケーション開発分野

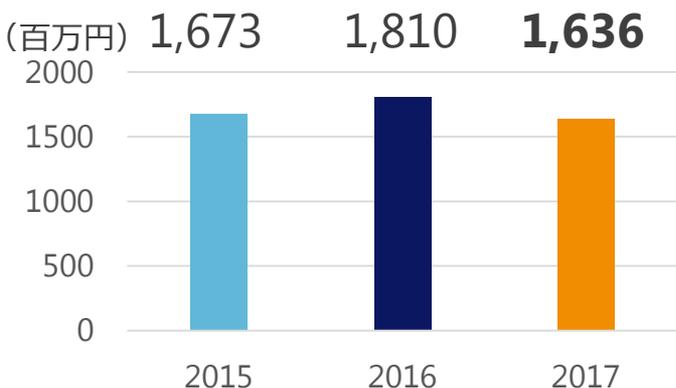


流通業向けや製造業向けシステム開発案件等が堅調に推移

前年同期比5.8%増収

分野別ハイライト

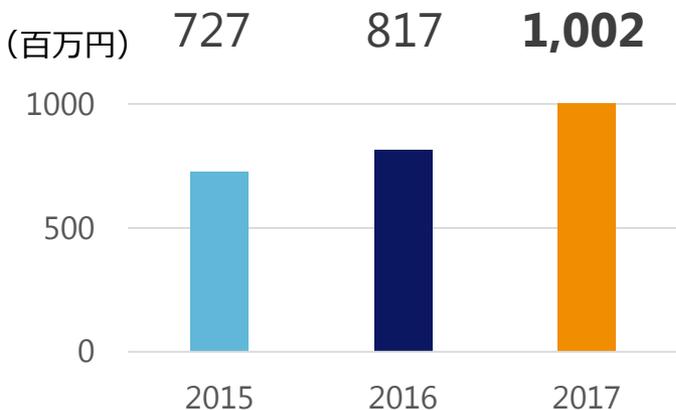
ソリューション分野（インフラ・ネットワーク）



通信業、官公庁向けITインフラ構築案件が堅調に推移したものの、ネットワークソリューション分野が減少

前年同期比9.6%減収

ソリューション分野（パッケージ等）



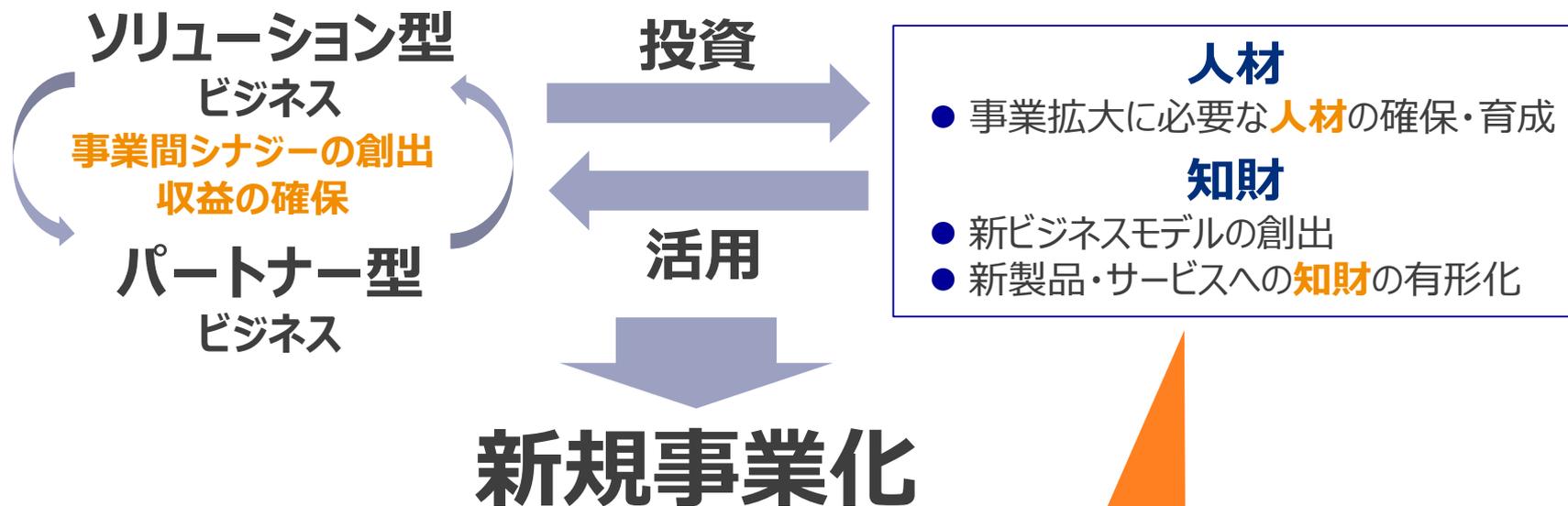
自社製品「Trustpro」に関連する案件やDWH、CRMに関連する案件等が堅調に推移

前年同期比22.6%増収

2017年度経営方針

『中期経営計画に基づき5年後を見据えた経営を加速する』

中期経営計画方針 『攻めの5年間』収益確保と財産（人材、知財）づくり



重点施策

『次世代型 S I 事業に向けた投資を加速』
～5年後の S I 事業を見据えた進化～

トピックス

ビジネスインキュベーション

AI・データサイエンス

アジャイル・マイクロサービス

セキュリティビジネス

クラウドソリューション

 Styleflow

 MCheck+

 Meeepa

 TDC SIRT

ISO27001

 CMMI DEV/3SM
Exp. 2019-03-07 / Appraisal #26117

知財

新ビジネス創出
製品、サービスの
維持・向上、
販売促進

人材

採用、調達力向上
人材育成

企業基盤強化

システム基盤、
グループ基盤増強

採用活動強化

リーダー育成

経営人材育成

高度技術者育成

PMP

TQS

ISO9001

社内システム刷新

 Project Management Institute
R.E.P. Institute

次世代型 S I 事業投資

5年後を見据え、次世代型 S I 事業投資を本格的に開始。
当年度に開始した具体的な取り組みは、次の通り。

● AI・データサイエンス分野

近畿大学とAIを活用しアクティブ・ラーニングの普及に貢献し、学生に質の高い教育を提供することを目指す共同研究を開始。

● アジャイル開発・マイクロサービス分野

世界的にもフレームワークとして未整備の状況であるエンタープライズアジャイル開発分野において、開発手法を確立するとともに当該分野の技術者の育成を目的に産業技術大学院大学と共同研究を開始。

● セキュリティビジネス分野

2015年度より発足したTDC-CSIRTにおける活動で蓄積したノウハウを事業に活用していく取り組みを推進。当期よりセキュリティ知識に関するノウハウの横展開を通じ事業の付加価値向上に向けた取り組みを実施。

次世代型 S I 事業投資

●クラウドソリューション分野

Trustproを中核に据えた、ホールプロダクト戦略の拡充を推進

Trustpro

クラウド型開発フレームワーク

コアプロダクト



ストレスチェック支援ソリューション



組織パフォーマンスを向上させる
チームマネジメントシステム



IT企業向け購買管理システム

2017年度提供開始

2017年
6月～



クラウド型ワークフローシステム

ExcelやWordで作成した申請フォームをWeb上の
フォームに変換し、簡単に利用が開始できるクラウド
型ワークフローシステム

2017年
11月～



IT企業向けアプリマーケット

IT企業の業務効率化に向けたツールを提供するクラ
ウド型のプラットフォームサービス。ファーストリリースとし
て「スキルシート管理」アプリから無償提供を開始

業績見通し

(単位：百万円)	2018年3月期	増減率	2017年3月期
売上高	23,800	+3.5%	22,991
営業利益	1,790	+8.8%	1,645
経常利益	1,800	+6.5%	1,690
当期純利益	1,140	△2.1%	1,165
EPS	94.64円		96.75円

期初計画から変更なし

業績見通し

■売上 ◆営業利益



2018年3月期第2四半期

決算内容

目次

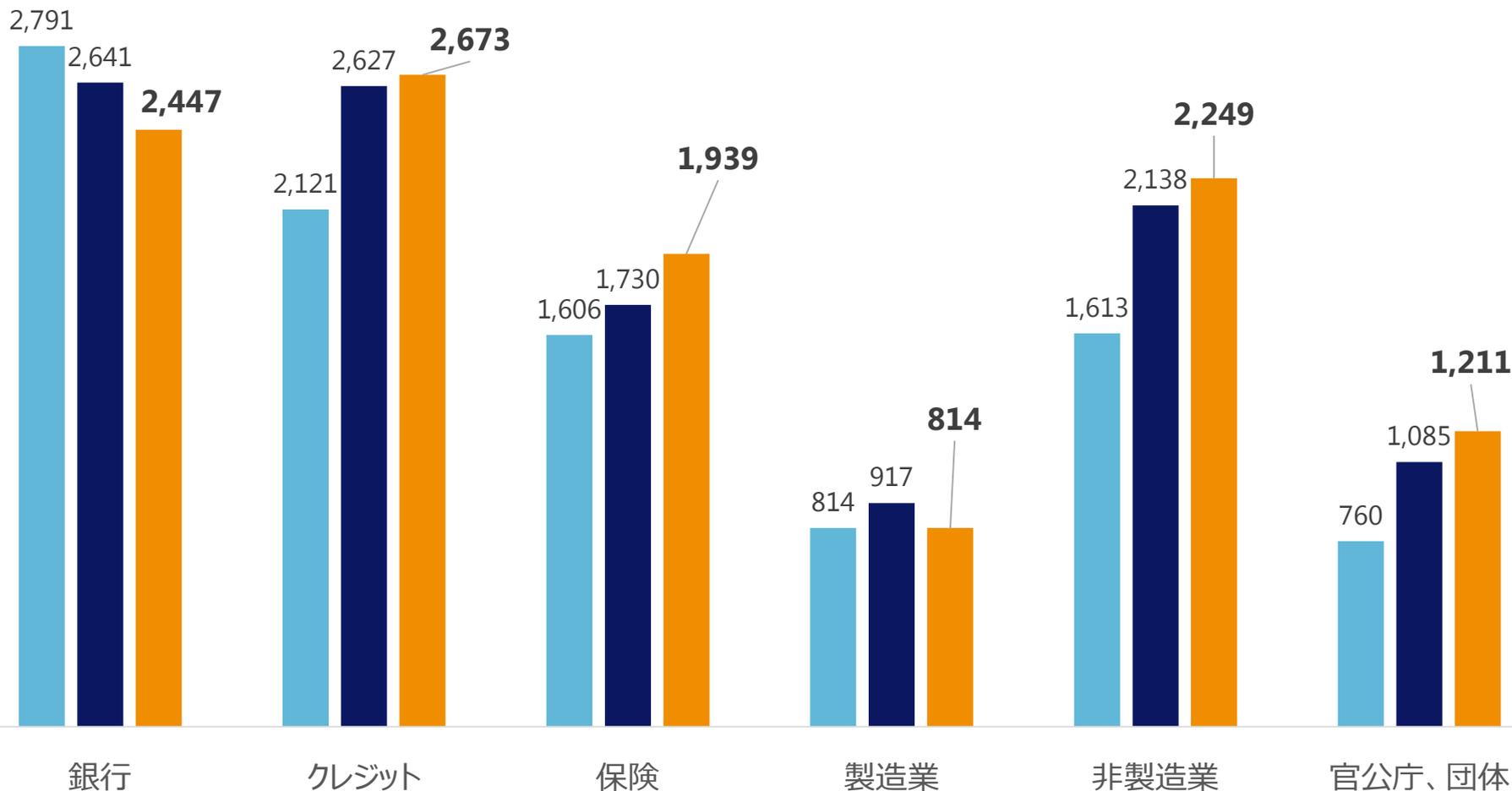
- 損益計算書
- 売上高分析
- 営業利益分析
- 貸借対照表
- キャッシュフロー計算書

損益計算書

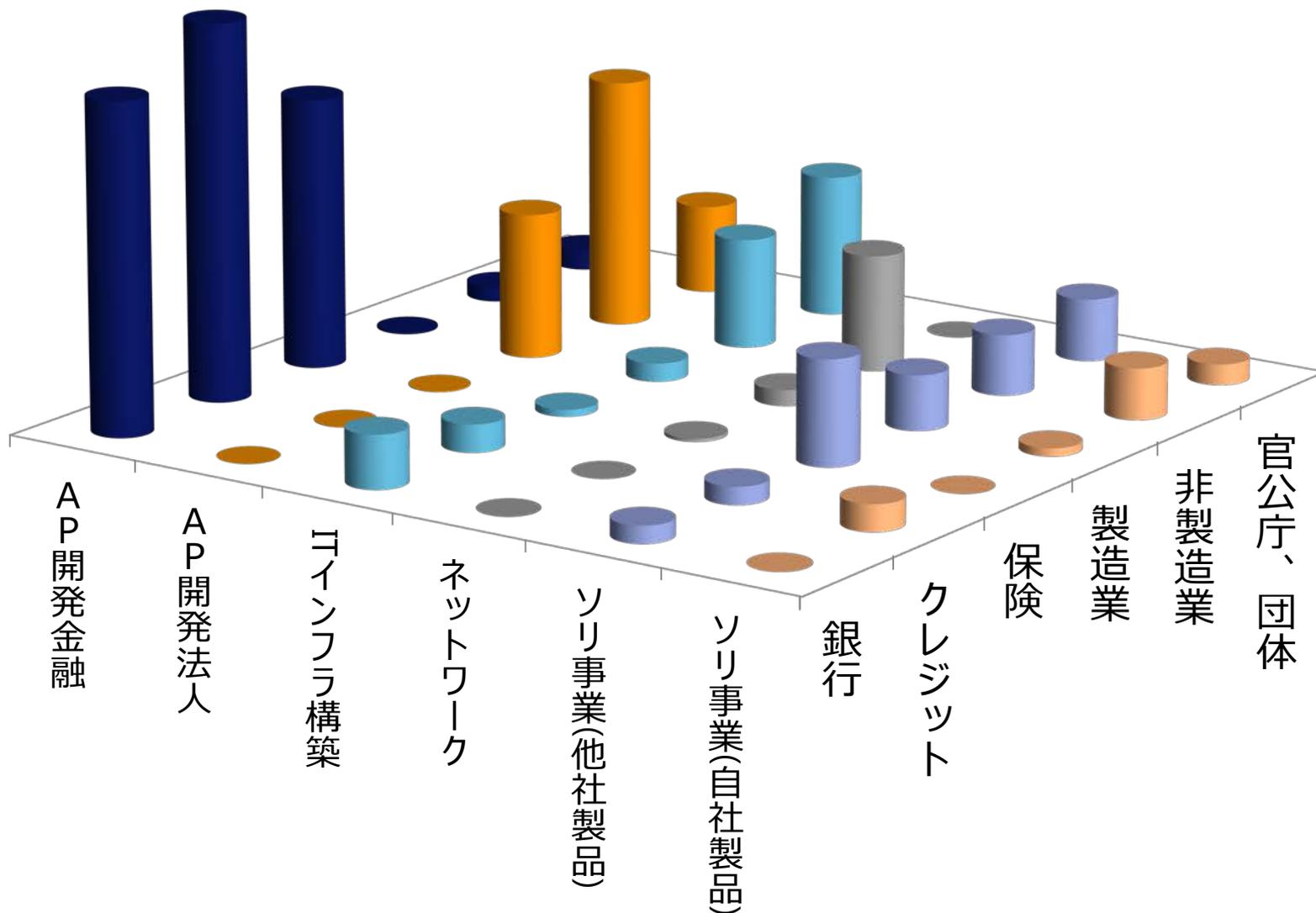
(単位：百万円)	2018年3月期 第2四半期	2017年3月期 第2四半期	増減率
売上高	11,334	11,138	+1.8%
労務費	4,383	4,175	+5.0%
外注費	4,349	4,360	△0.3%
その他経費	369	357	+3.4%
仕掛増減高	159	96	+64.2%
売上原価	8,943	8,797	+1.7%
売上総利益	2,390	2,341	+2.1%
販売費及び一般管理費	1,500	1,357	+10.6%
営業利益	889	983	△9.6%
営業外収支	28	15	+81.9%
経常利益	917	999	△8.1%
特別損益	-	-	-
税引前当期利益	917	999	△8.1%
当期純利益	570	624	△8.6%
EPS	47.37	51.84	△8.6%

顧客業種別売上高概況

(百万円) 2016年3月期第2四半期 2017年3月期第2四半期 2018年3月期第2四半期



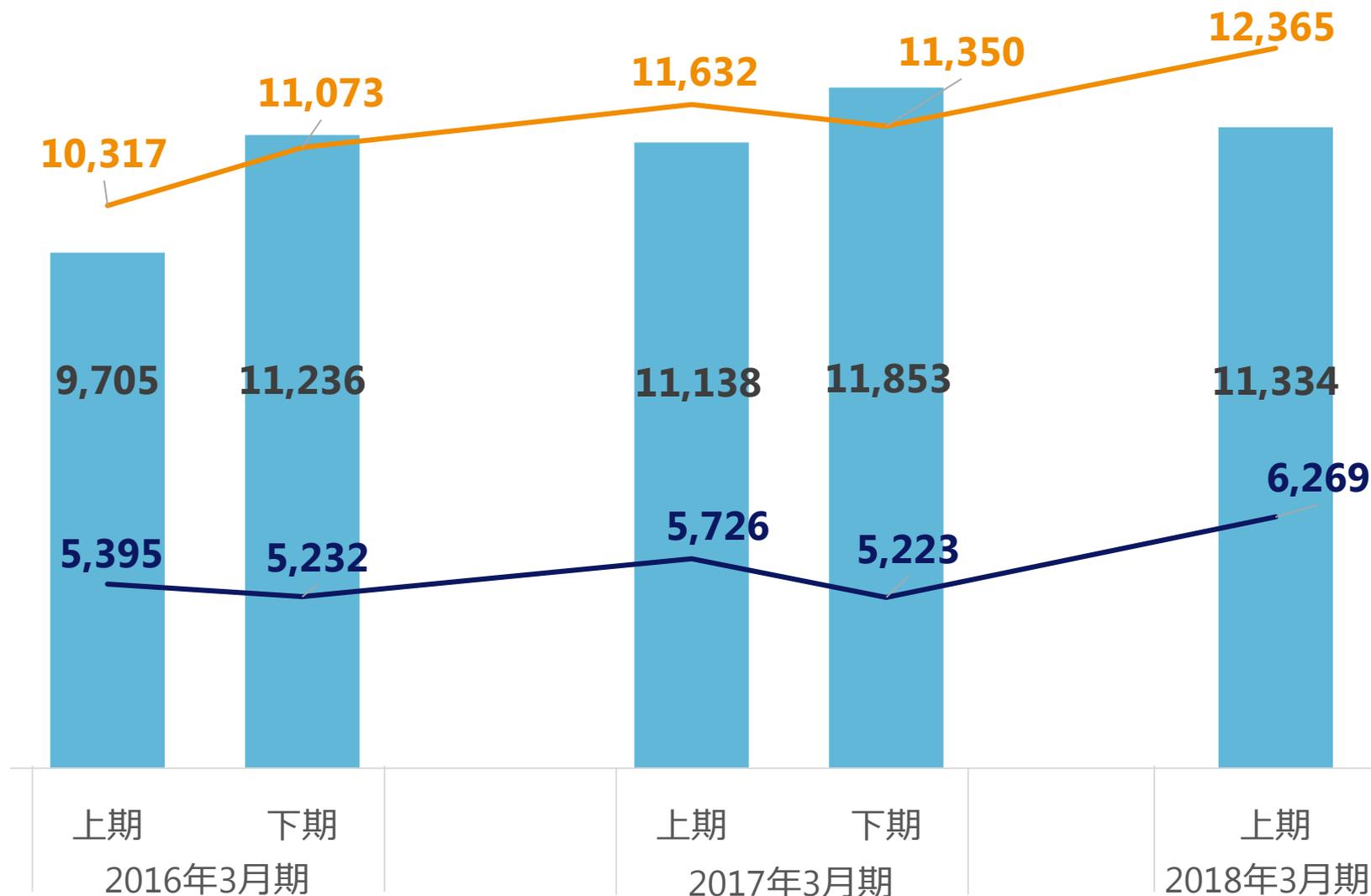
顧客業種別売上高概況



受注高・受注残高の状況

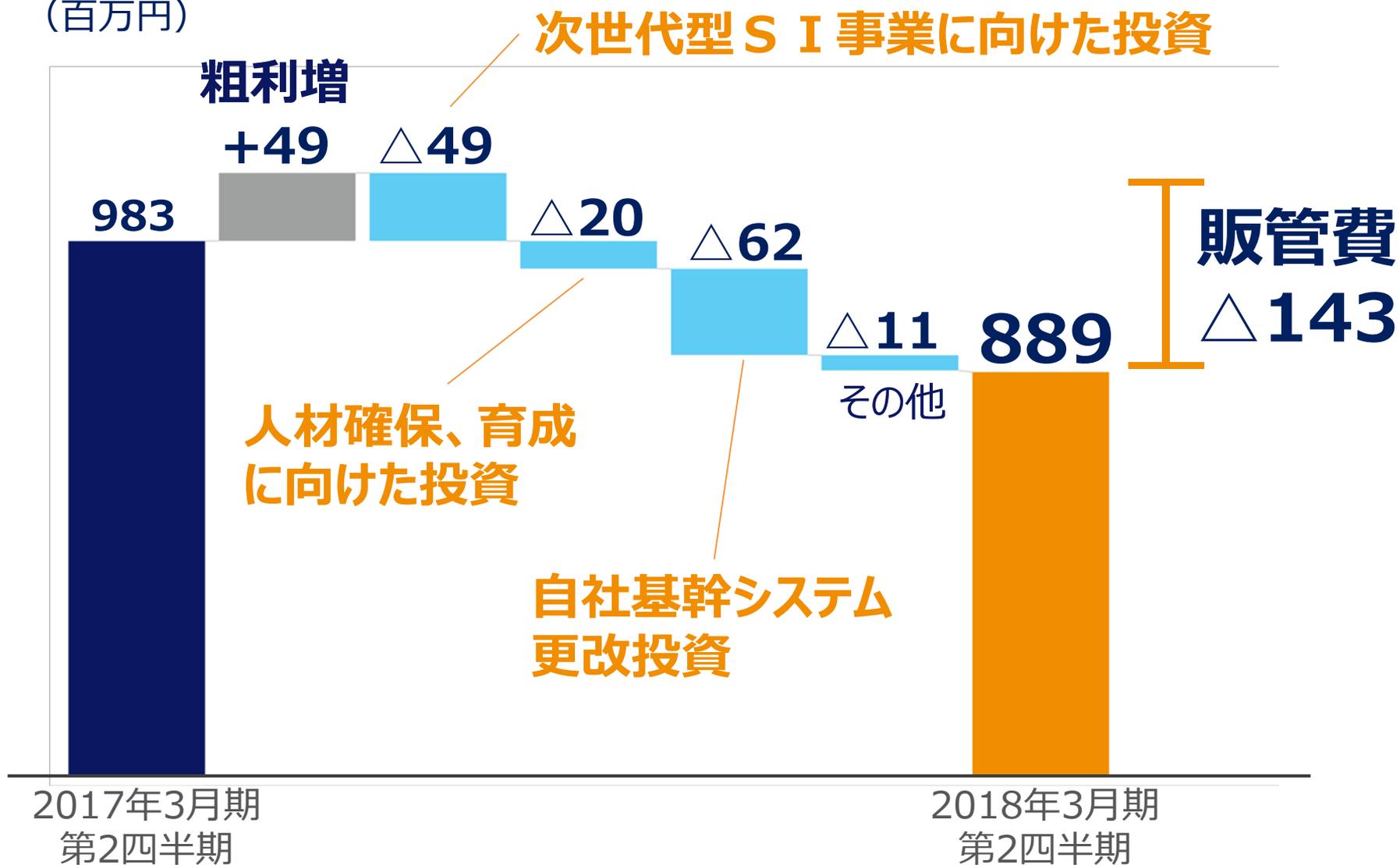
(百万円)

売上高 受注高 受注残



営業利益分析

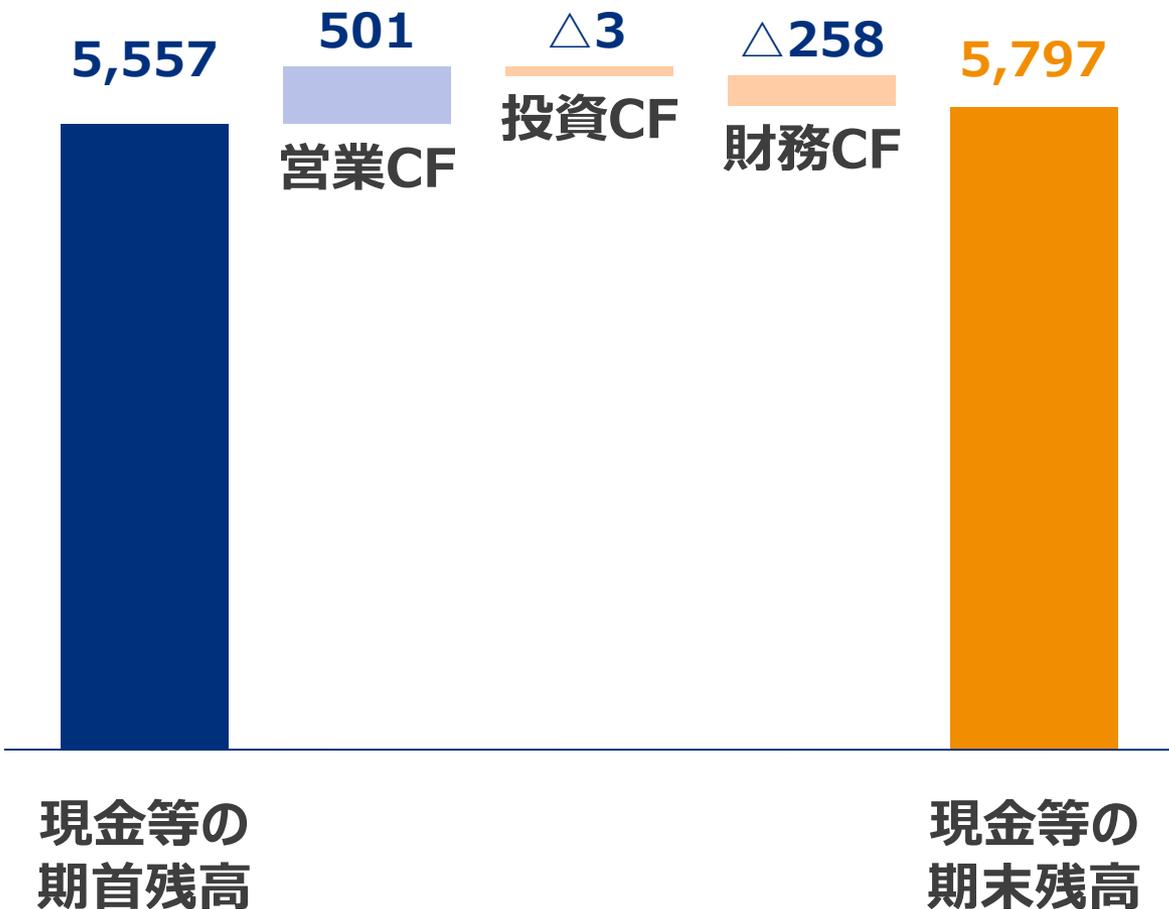
(百万円)



貸借対照表

(単位：百万円)	2018年3月期 第2四半期末	2017年3月期末	増減率
資産合計	13,677	13,615	+0.5%
流動資産	10,659	10,991	△3.0%
固定資産	3,017	2,624	+15.0%
負債合計	4,068	4,489	△9.4%
流動負債	3,678	4,242	△13.3%
固定負債	389	247	+57.8%
純資産合計	9,609	9,126	+5.3%
負債純資産合計	13,677	13,615	+0.5%
自己資本比率	70.3%	67.0%	-
1株当たり純資産	802.3	757.68	+5.9%

キャッシュフロー計算書



現金等の期首残高	5,557
税引前利益	917
減価償却費	62
売上債権	745
仕入債務	△78
棚卸資産	△159
未払費用	△385
法人税等支払等	△378
その他	△223
営業CF	501
有形固定資産取得	△2
無形固定資産取得	-
投資有価証券取得	△18
その他	17
投資CF	△3
短期借入金増減	130
配当金支払額	△385
その他	△3
財務CF	△258
現金等の期末残高	5,797

T D C ソフト株式会社

<http://www.tdc.co.jp/>

※本資料についてのご注意：

本資料に記載されているT D C ソフトグループの将来の予想に関する事項は、現時点における情報に基づき判断したものであり、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により変動することがあります。